宇部市総合計画審議会産業振興分科会（第２回）議事録　【要旨】

日　時　平成２１年1月２９日（木）１５：１５～１７：００
場　所　市役所２階　第４会議室
出席者（委　員）横 屋 幸 児　　上 村 昭 義　　黒 髙 滿 義　　千 葉 泰 久
　　（事務局）総合政策部次長　小　川　徹　　ﾗﾝﾄﾞﾌﾞﾚｲﾝ株式会社　田 中 元 清
　　（専門部会）経 済 部 次 長　部 坂 博 美　　都市開発部次長　佐々木俊寿
欠席者（委　員）田 辺 龍 夫

１　産業振興分野における現状把握及び今後の方向性について

＜今後の審議日程と内容について＞

事務局から、今後の審議予定を説明した上で、参考として、第三次総合計画の基本構想を配付し、その中で産業振興分野に関する部分がどのように盛り込まれていたかを具体的に示した。

＜当分科会での議論の進め方について＞

事務局から、産業振興分野の分析例に沿ってＳＷＯＴ分析の考え方と作業手順の説明し、ＳＷＯＴ分析の内部環境、外部環境の検討に着手した。

なお、基礎調査報告等から「地産地消の推進の取組」「観光・コンベンションの推進が低調」などの新たな要因の追加について、事務局から提案し、当初分に含めて検討した。

（委　　員）　人口減少の右肩下がりの状況で、どう特徴を出していくか。対象を絞って、ある程度方向性をもって分析すべきである。著名者インタビューの中に答えがあるので、産業振興に関するものを抜き出して議論したらどうか。

（事 務 局）　ＳＷＯＴ分析もその考え方で作られている。まず、戦略を考える前段階として、宇部市の内部環境としての強みや弱みを出している。追加や修正を加え、次回以降で著名者などの指摘も踏まえ、戦略の検討を行いたい。

（委　　員）　「産業観光」は他の地域にない取組で、観光地でない工場・企業の地域貢献を商品化し、弱みを強みに転化した。

（委　　員）　コンベンション都市として、ホテルの収容力が低く他都市との競合に勝てないのは弱みだ。ピーク時の収容力を備えると、通常時の稼働率が悪い。

（委　　員）　経済が豊かになって第３次産業が増えている。しかし、景気後退の状況では、第３次産業だけでは持たない。ものづくりの第１次、第２次産業の連携が必要だ。景気後退のこの時期、どうやって、強い体質を作り、よそに当たり負けしない地域、元気のある地域になるかが大切だ。

（委　　員）　水産物も地域のブランドにしようとしても、地域に販路がなく、他の地域に出荷することになる。

（委　　員）　地域産業が振興しないと人は集まらず、まちづくりはできない。農林水産業の継承するために地産地消の流通路を整備してマーケットを少しずつ作っていく。難しいのはその後で、更に、魅力あるもの、差別化できるものが打ち出せるかである。

（委　　員）　ブランドづくりは、一企業がリスクを負うのではなく　地域を挙げて取り組む覚悟が必要であり、市のバックアップが必要である。

（委　　員）　最近、海外から介護職員の受け入れの話がある一方、派遣切りのような問題もある。水産業にしろ、介護職にしろ、その所得できちんとした生活ができないことが問題だ。生活できるシステムを、この地域だけでも少しずつ作っていけば、若者が就業するようになる。

（委　　員）　人口減少社会に入り、道路行政を見直す必要がある。トータルに見て効果的なところに造る必要がある。

（委　　員）　産業振興に寄与する効果的な道路整備ができていない。

（委　　員）　宇部市の住宅地は既に郊外に拡散しすぎた。この状況で、コンパクトシティにしようと中心市街地の交通規制を強化しても、逆に人口が流出してしまうのではないか。

（委　　員）　公共交通を充実させるとすると、現在の市営バスの経営状況からみて、便数を増やしても税金というかたちで市民が負担することになるが、それを認めるか。

（委　　員）　大学生は、車に乗れないので不便を感じている。

（委　　員）　学生の経済効果といえば、広島市は広島大学移転の後、すこし寂しくなったようだ。一方、移転先の東広島市では、学生の移動手段として車の利用が増加している。まちづくりと車の利用規制との兼ね合いを考える必要がある。

（委　　員）　ＳＷＯＴの要因が増えてくると分かりにくくなり、戦略を整理しにくい。事務局で種類別に系統立ててほしい。

＜次回に向けて＞

ＳＷＯＴの追加の要因があれば、２月 13 日までに、事務局へ提出することとする。

※次回開催　平成 21 年 2 月 26 日(木)　15:15～　宇部市総合福祉会館